

「6月16日の浅間山小噴火の記録」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

6月16日の午前中に、浅間山が小噴火を起こした。2009年2月以来の噴火である。噴火といっても、碎屑物(火山灰)が北麓にごくわずかに積もった程度の、非常に軽微なものだった。当日は曇っていて、噴火の瞬間を画像でとらえることはできなかった。しかし、噴火当日の夜に、浅間山に火映現象が観測された。



「浅間山の火映現象」2015, -6, 16 20:30 北軽井沢
噴気の根元にうっすら赤く写っているのが、火映である。浅間山で、はっきりとした火映現象が観測されたのは、2010年以来5年ぶりである。

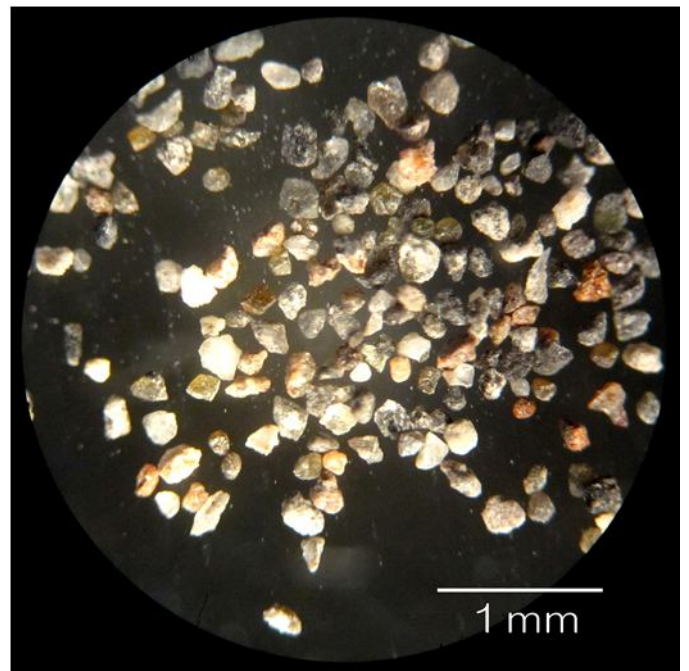
火映現象は、マグマ上昇による火口壁内の灼熱状態が、噴気や雲に反映して見える現象である。麓からは見えない火口内部の状態を、光学的に知りうる、数少ない情報だ。



こちらは、同じ日の深夜24時に、別のカメラ(友人設置)がとらえた、火映現象である。こちらは感度

のいい写真なので、より鮮明に写っている。しかしいずれの写真も、火映現象としてはごく弱いレベルで、肉眼での観測は難しかったと思われる。

今回の噴火では、北麓にごく少量の火山灰の降下も観測された。私は地元の方にすぐに採取を依頼し、直後に東京に送ってもらった。しかし、量があまりにも僅少で、採取は困難を極めたという。こういう場合最もいいのは、自動車のフロントガラスである。フロントガラスは常にきれいになっているもので、通常屋外にあるからだ。また面積がわかるので、単位面積あたりの降灰重量も計算できる。今回はフロントガラス全体から集めても、0.1gに満たなかった。



「2015年6月16日噴火の浅間山火山灰顕微鏡写真」

浅間山北北西約6.1km地点 撮影; C. Tanaka

顕微鏡(反射光)で観察したところ、普通の火山灰と何ら変わらないものだった。発泡している粒子も探したが、見つからなかった。これが、新しく上昇したマグマ由来の火山灰なのかは、ちょっとわからなかった。しかし火山灰であることは確かで、今回、浅間山が噴火し、碎屑物を火口外に出した確証である。